

PROTOTYPING WORKFLOW



**monofab**



# DG Value News

第34期中間のご報告 2014年4月1日～2014年9月30日

Vision  
ビジョン

# イメージをカタチに

私たちローランド ディー.ジー.は“イメージをカタチにする”ソリューションを世界中の人々に提供し、新たな創造の世界を切り拓いていくことを目指しています。

私たちは、Imagine.(想像)こそがすべての分野における創造の原点であると考え、お客様が描いているImagine.の世界を大切にし、お客様とともに「想像を超える創造」を実現していきます。

## ▶▶ 世界200以上の国と地域で

連結販売子会社を中心に、世界200以上の国と地域のお客様に製品やサービスを提供しています。

● 連結販売子会社



## ▶▶ 独創的な事業展開

当社では、カラー事業と3D事業の2分野を中心に、デジタル技術でものづくりを効率化するソリューションを提案しています。

### カラー事業



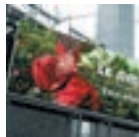
屋内外の大型看板やポスターなどを製作するサイン業界に向けて、業務用大型インクジェットプリンターなどを展開しています。

### 3D事業

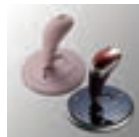


製造業や医療分野などに向けて、刃物を使って形状を削り出す3D切削加工機やデジタル彫刻機、3Dプリンターなどを提案しています。

### デジタル印刷



### 製造業



### 医療



### パーソナル



## 企業スローガン

## 創造の喜びを世界にひろめよう BIGGESTよりBESTになろう 共感を呼ぶ企業にしよう

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
第34期上期(2014年4月1日～2014年9月30日)が終了いたしましたので、事業の概況および連結の決算のご報告を申し上げます。

2014年12月

取締役社長

富岡昌弘



### ● 第34期上期 連結業績

#### プリンターの新製品効果や円安の影響により、増収増益となりました。

当上期の世界経済は、一部の新興国における成長率鈍化や欧州、中東における地政学的リスクなどの影響による先行き不透明感があったものの、米国、欧州、日本などにおいては概ね緩やかな回復基調が続きました。

このような状況の中、付加価値の高い製品による市場の活性化や新市場の開拓などに取り組んだ結果、売上高については、前期に投入したプリンターの新製品やデジタル加工機などが好調に推移したことに加え、円安効果もあり、前年同期を上回りました。費用面では、販売費及び一般管理費は増加したものの、円安にとまなう海外子会社の仕入コストの低減効果などにより原価率が改善いたしました。この結果、利益面では、営業利益、経常利益、

四半期純利益ともに前年同期を上回る結果となりました。

当社では、グループ一体となり総合力を発揮するための構造改革「GlobalOne(グローバルワン)」を核とした中期経営計画に取り組んでおります。各地域のニーズを取り込むセールス・マーケティングおよび開発体制を構築し、新たな成長分野の創出に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

### ■ 第34期上期 連結業績

売上高	229億34百万円	前年同期比 16.1%増
営業利益	38億03百万円	前年同期比 50.4%増
経常利益	35億92百万円	前年同期比 38.8%増
四半期純利益	21億69百万円	前年同期比 31.8%増



## monoFab シリーズ発売

9月3日、当社はデスクトップで新たなデジタルものづくりを提案するための新シリーズ「monoFab(モノファブ)シリーズ」を立ち上げ、当社初の3DプリンターARM-10と新開発の3D切削加工機SRM-20の二機種を世界同時発売いたしました。monoFabの「mono」はものづくりに由来していますが、「もの語り」や「もの思い」といった言葉にあるような、頭の中の「夢」や「アイデア」「イメージ」を含んでいます。「Fab」はものづくりの「づくり」と同様の意味を持つ「Fabrication(ファブリケーション)」の略です。monoFabは、まさに「イメージをカタチに」という当社のビジョンを体現した名前であり、新しい価値を創造するためのツールとして広めていきたいという思いを込めています。monoFabシリーズの開発の背景から今後の方向性まで、社長の富岡に聞きました。

### Q monoFabシリーズの開発の背景を教えてください。

**A** 当社の3D事業では、これまで「デスクトップサイズ・簡単操作・導入しやすい価格」をコンセプトに開発された3次元入出力装置により、パソコンのすぐ隣で誰もが手軽にイメージをカタチにできる「デスクトップ・ファブリケーション」を幅広い分野に向けて提案してまいりました。近年のデジタル環境、情報通信技術の発展により、3Dデータを活用したものづくりは身近になりつつありま

す。当社では、デスクトップ・ファブリケーションのコンセプトを引き継ぎながら、より気軽にアイデアを実現しやすいツールを通して、次世代デジタルものづくりを提案したいと考え、monoFabシリーズを開発いたしました。

### Q ARM-10の特長は何ですか？

**A** ARM-10は、一層毎にスライスした3Dデータを基に、プロジェクターからUV-LED(紫外線発光ダ

イオード)の光を照射し、専用の紫外線硬化樹脂を一層ずつ硬化させることで造形する、光造形方式の3Dプリンターです。市場にはARM-10と同等の価格帯の競合製品はいくつかありますが、デスクトップサイズで、面露光式のUV光造形方式を採用している製品は他にありません。複雑な形状を高い精度で造形できる半面、手ごろな価格で誰もが使いやすく、コンパクトである点に優位性があります。



積層中のイメージ

## Q SRM-20の特長は何ですか?

ARM-10は、ものづくりの初期工程でデザインを素早く確認したい場合や、中空構造など入り組んだ複雑な形状を造形する場合に最適です。SRM-20は、さまざまな材料の切削が可能のため、最終成果物に近い素材を用いて質感や重量などの確認や、はめ込み(嵌

SRM-20は、発売以降、世界中で10,000台以上を販売した3D切削加工機MDX-20/15の後継機種です。MDX-20/15は企業や教育機関からホビー用途まで、幅広い分野で活用されるとともに、ファブラボ(P12トピックス参照)の推奨機器としても採用されています。SRM-20は、新たに高性能な切削用モーターを採用し、コンパクトサイズながら、より高速で精度の高い加工を実現しました。



切削中のイメージ

## Q 積層型のARM-10と切削型のSRM-20を同時発売する意義を教えてください。

ARM-10は、ものづくりの初期工程でデザインを素早く確認したい場合や、中空構造など入り組んだ複雑な形状を造形する場合に最適です。SRM-20は、さまざまな材料の切削が可能のため、最終成果物に近い素材を用いて質感や重量などの確認や、はめ込み(嵌

合)部分などの構造を確認することができます。それぞれの特性を活かし、ものづくりの着想段階から生産工程までのワークフロー内で最適な方法を選択できるようになっただけでなく、両機の利点を組み合わせていただくことで、新しい価値を創造できるのではないかと考えています。

## Q monoFabシリーズをどのように広めていこうと考えていますか?

monoFabシリーズがメインターゲットとしているのは、エンジニアやデザイナー、教育・研究関係者、学生などです。これまで3D事業で培ってきた経験やノウハウとともに、ものづくり全般の幅広い分野において創造力あふれる顧客基盤があります。また、当社ではアプリケーションやソリューションをユーザーと共有するための「クリエイティブセンター」という施設や、製品の使い方やノウハウを提供する「アカデミー」という教育サービスを世界各地で展開しています。これらの資産と経験を活かし、お客様と共創できるものづくり環境を構築していくとともに、職種や職業に捉われないこと、新しいアイデアをカタチにできるワクワクする気持ちやドキドキ感を広めていきたいと考えています。

## Q 今後の3D事業の方向性を教えてください。

今後もデジタル技術や通信技術はさらなる発展を見せ、ものづくり環境も大きく変化していくと思われます。当社ではデスクトップ・ファブリケーションのコンセプトのもと、人々の感性を刺激し、創造力を高めることができるツールを開発・提供していくことで、3D事業の拡大を図ってまいります。

● カラー事業

## 各地域のニーズに合わせた付加価値を提案。

サイン市場が成熟化傾向にある先進国では、高い付加価値を生み出す製品・ソリューションの提案により市場の活性化を図っています。

当上期においては、これまで売上を牽引してきたインクジェットプリンターのプロ用機種XR-640が、新製品効果の一巡や厳しさを増す競争環境の影響などにより伸び悩んだものの、前期に投入した新製品が好調に推移しました。昨年4月に発売した当社史上最速の印刷スピードを持つプロ用機種XF-640は、従来のサイン製作用途に加え、スポーツウェア製作などのテキスタイル用途において導入が進みました。また、昨年10月に発売した主力機種の新製品VS-iシリーズは、プリント&カット機能やメタリックインクによる付加価値の高いサイン製作により、ビジネスの差別化を実現するプリンターとして各国で好

調な販売となりました。

一方、新興国では、これまで未開拓だった地域へのアプローチを含め、積極的なセールス・マーケティング活動を展開しています。中国や韓国などにおいては、現地のサイン製作でニーズの高い水性インクに対応したプリンターが市場から高い評価を得て好調に推移しました。また、今年7月には、従来機比2倍の生産性を実現した低価格機種の新製品「VersaEXPRESS(バーサ・エクスプレス)RF-640」をリリースし、新興国サイン市場における提案力強化を図りました。

さらに、紙以外のさまざまな素材に直接印刷が可能なUVプリンターを活用した、新しいプリントビジネスの提案にも注力しています。なかでも卓上型UVプリンターLEFシリーズは、スマートフォンケースやノベルティなどへ好みの絵柄や文字などを印刷するカスタマイズ用途でオリジナルグッズ業界へ浸透し、売上を大きく伸ばしました。

✓CHECK

**VersaEXPRESS**  
**RF-640**

NEW 7月2日発売



看板や垂れ幕などの屋外広告物を出力するための大型インクジェットプリンターです。従来機比2倍の生産性と導入しやすい価格を実現するとともに、大量出力をサポートするための各種機能の強化を図りました。経済発展にともない広告需要が増加している新興国市場に向けて提案してまいります。

**monoFab**

**ARM-10** (上)  
**SRM-20** (下)

NEW 9月3日発売



次世代のデジタルものづくりの提案として、当社初の3Dプリンターと3D切削加工機の新製品を「monoFabシリーズ」として同時発売しました。

## ● 3D事業

### デンタル加工機が大きく伸長。 当社初の3Dプリンターも発売開始。

デジタルデータを活用してものづくりの価値を高める大きな流れが、個人・企業を問わずさまざまな分野で広がってきております。当社ではこの「新たなものづくりムーブメント」をビジネスチャンスと捉え、「デスクトップサイズ・簡単操作・導入しやすい価格」をコンセプトとした3次元入出力装置によるデジタルものづくりを提案し、新市場の創出に取り組んでいます。近年では、従来からの主力分野である製造業や彫刻業に加え、デンタル(歯科医療)分野やパーソナル(個人)分野への活動に注力しています。

当上期においては、歯の治療に使用する詰め物や被せ物を製作するデンタル加工機DWXシリーズが大きく伸長しました。歯科医療の現場では、患者の歯型をデジタルデータ化して治療などに活用するケースが増えていることに加え、金や銀などの金属素材に替わる材料として、ジルコニアやハイブリッドレジンなど、切削という方法でしか加工できない新素材が登場していることもあり、デジタルデータから形状を削り出すシステムへのニーズが高まっています。当社では、加工機を提供するだけでなく、詰め物や被せ物の製作プロセスをデジタル化する手順、ノウハウおよびサポートをトータルで提案できる体制構築や販売網の整備・拡充を進めたことが奏功し、先進国を中心に導入が加速しました。

また、今年9月には、当社初の3DプリンターとなるARM-10と3D切削加工機の最新モデルSRM-20を「monoFab(モノファブ)シリーズ」として同時発売しまし

た。当社がこれまで提案を継続してきた「切削」加工に、3Dプリンターの「積層」加工を加えることで生まれるデジタル時代の新しいものづくりを提案してまいります。

#### ● ジルコニア

金属よりも高い強度を持ち、見た目も自然な歯の色に近いセラミックの新素材。

#### ● ハイブリッドレジン

レジン(樹脂)とセラミックを混ぜ合わせ、適度な強度と弾性をあわせ持つ新素材。



ハイブリッドレジン

## ● 第34期通期 連結業績予想

### GlobalOneを推進し、 新たな成長に向けた取り組みを強化。

第34期の通期業績予想ですが、サイン市場に向けたプリンターのプロ用機種については、競争環境が厳しくなっていくことが予想されるものの、高い付加価値を生み出すソリューションの提案と新市場への取り組みを強化していくことで、下記のとおり増収増益を見込んでおります。今後も構造改革[GlobalOne]および中期経営計画に沿った活動に全社一体となって取り組み、業績向上に努めてまいります。

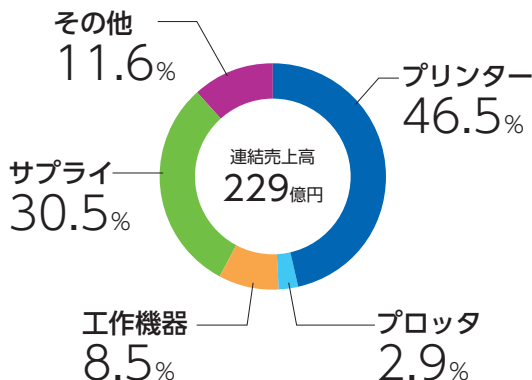
## ■ 第34期通期 連結業績予想

売上高	458億70百万円	前期比	8.8%増
営業利益	69億70百万円	前期比	14.1%増
経常利益	67億60百万円	前期比	8.3%増
当期純利益	43億00百万円	前期比	0.8%増



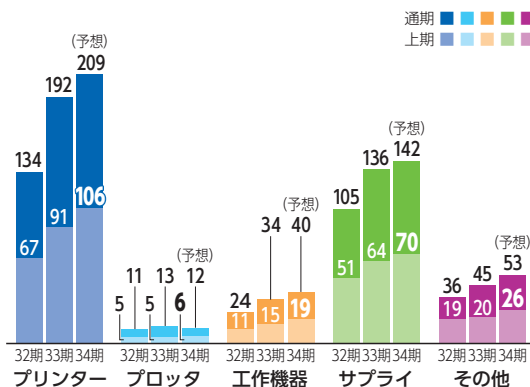
品目別

● 売上高構成比 (第34期上期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

プリンター

106億50百万円 (前年同期比 16.4%増)

主力のサイン市場において、プロ用機種のXR-640が伸び悩んだものの、主力機種の新製品VS-iシリーズが好調に推移しました。また、スポーツウェア製作などのテキスタイル用途でXF-640の導入が進みました。さらに、卓上型UVプリンターLEFシリーズがオリジナルグッズ製作用途で伸長し、前年同期を上回りました。

プロッタ

6億74百万円 (前年同期比 22.3%増)

主力機種の販売が堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。

工作機器

19億39百万円 (前年同期比 24.7%増)

デンタル加工機DWXシリーズが大きく伸長しました。顧客へのトレーニング・サポート体制の強化や販売網の整備・拡充が着実に進んだことに加え、前期にコンパクトかつ低価格なモデルを投入したことなどもあり、先進国を中心に売上を伸ばしました。その結果、工作機器の売上高は前年同期を上回りました。

サプライ

70億1百万円 (前年同期比 9.3%増)

プリンターの好調な販売にともない、主にインクの売上が増加したことにより、前年同期を上回りました。

その他

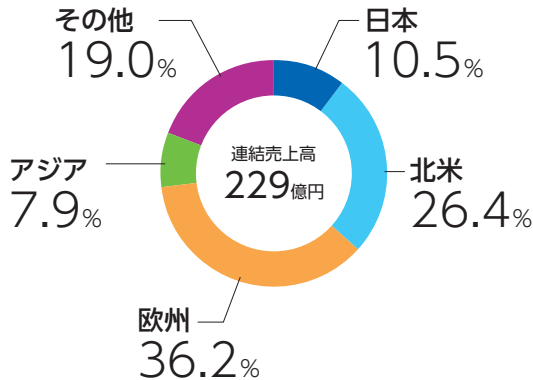
26億68百万円 (前年同期比 28.1%増)

海外を中心に保守契約やサービスパーツなどの販売が増加し、前年同期を上回りました。

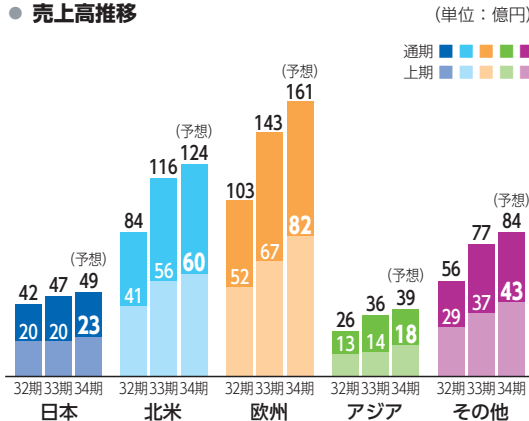


## 地域別

## ● 売上高構成比(第34期上期)



## ● 売上高推移



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

## 日本

23億99百万円(前年同期比 15.8%増)

プリンターでは、卓上型UVプリンターLEFシリーズが好調に推移しました。工作機器では、デンタル加工機DWXシリーズが、「ハイブリッドレジン素材とデジタルデータを用いて製作した歯の詰め物や被せ物に対する保険適用」にともなう歯科技工所の設備投資需要を取り込んだことにより大きく伸長し、前年同期を上回りました。

## 北米

60億44百万円(前年同期比 6.2%増)

プリンターでは、主力機種 VS-シリーズやLEFシリーズが好調に推移しました。工作機器では、顧客へのトータルソリューション提案やトレーニング・サポート体制の構築が進んだDWXシリーズが伸長しました。これらに加え円安効果もあり、前年同期を上回りました。

## 欧州

82億99百万円(前年同期比 22.5%増)

プリンターでは、VS-シリーズやスポーツウェア製作などのテキスタイル用途でXF-640が好調な販売となりました。LEFシリーズは、オリジナルグッズの製作用途で複数台導入されるケースが増加し、大きく伸長しました。工作機器では、南欧地域を中心にDWXシリーズが堅調に推移しました。これらに加え円安効果もあり、前年同期を大きく上回りました。

## アジア

18億24百万円(前年同期比 23.9%増)

中国や韓国では、現地のサイン製作で使用頻度の高い水性インクに対応したプリンターが市場から高い評価を得て好調に推移しました。ASEAN地域においては、各国の販売代理店と連携したセールス・マーケティング活動により売上を伸ばし、前年同期を大きく上回りました。

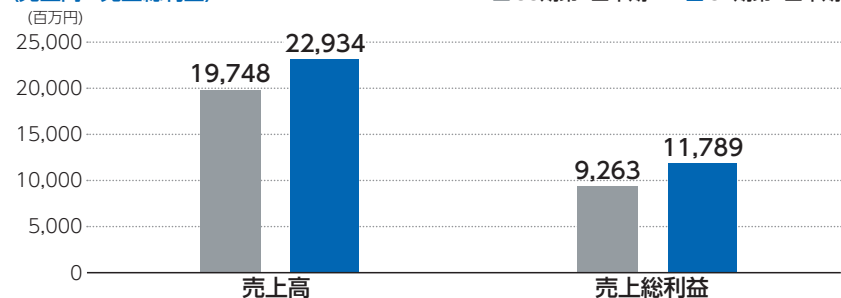
## その他

43億66百万円(前年同期比 16.7%増)

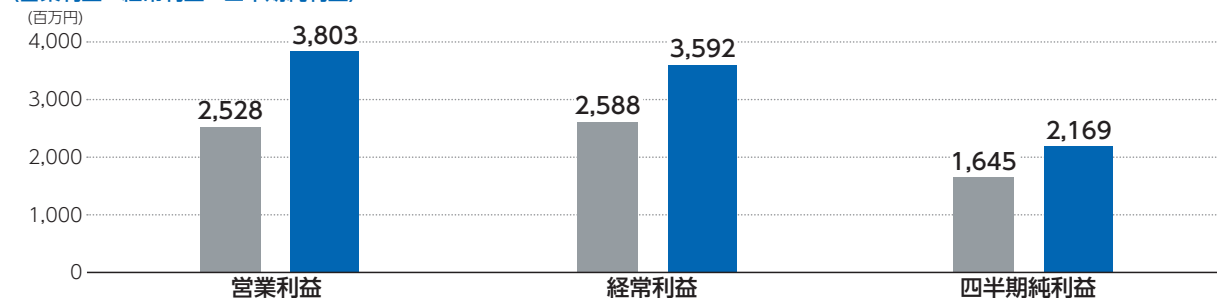
オーストラリアでは、VS-シリーズが堅調に推移しました。また、ブラジルでは、プリンターの低価格機を中心に売上を伸ばしました。さらに、アフリカや中東地域も堅調な販売となり、前年同期を上回りました。

■ 四半期連結損益計算書の概要 (単位：百万円)

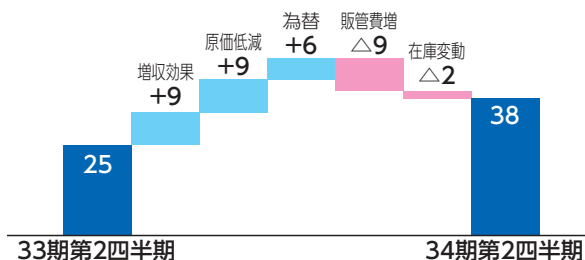
〈売上高・売上総利益〉



〈営業利益・経常利益・四半期純利益〉



〈営業利益の変動要因〉 (単位：億円)



POINT 連結損益計算書

売上高は前年同期比16.1%増の229億34百万円となりました。費用面では、販売費及び一般管理費は増加したものの、円安にともなう海外子会社の仕入コストの低減効果などにより原価率が改善しました。

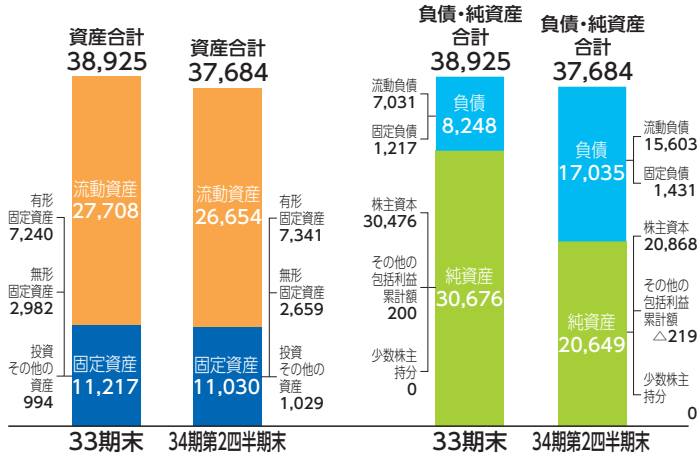
これにより、営業利益は前年同期比50.4%増の38億3百万円、経常利益は前年同期比38.8%増の35億92百万円となりました。また、デンマークの連結子会社に関してのれんの減損損失を2億13百万円計上し、四半期純利益は前年同期比31.8%増の21億69百万円となりました。

さらに詳しい情報につきましては、下記のIRサイトをご覧ください。  
<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

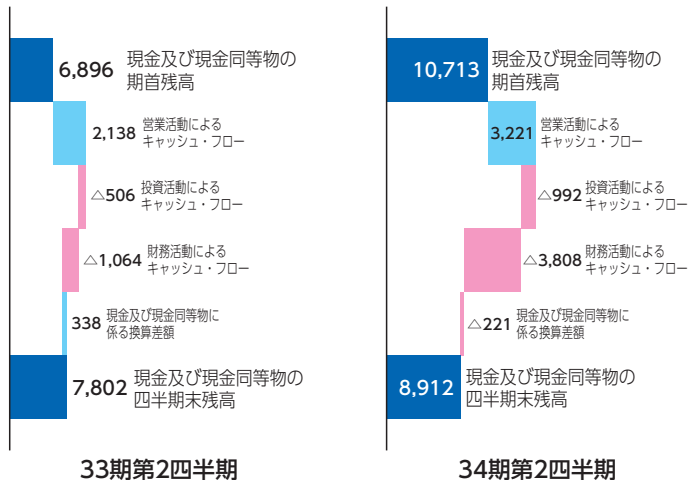
ローランド ディー.ジー. IR

検索

#### ■ 四半期連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



#### ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



#### POINT 連結連結貸借対照表

流動資産では、現金及び預金が14億円減少し、原材料及び貯蔵品が3億円増加しました。固定資産では、のれんが減損損失の計上もあり4億円減少しました。

流動負債では、支払手形及び買掛金が13億円増加し、主に公開買付けによる自己株式の取得資金として短期借入金が80億円増加しました。一方、その他の流動負債が6億円減少しました。

純資産では、当期の業績等にもなう増加があるものの、自己株式の取得および消却で利益剰余金が91億円減少し、自己株式が5億円増加しました。その他の包括利益累計額に含まれる為替換算調整勘定は、4億円の減少となりました。

#### POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

増加要因は、業績の向上により税金等調整前四半期純利益が伸びたこと、また、売上債権が減少し、仕入債務が大きく増加したことなどによります。減少要因は、たな卸資産が増加し、その他流動負債が減少したことに加え、法人税等の支払額が増加したことなどによります。

#### POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

前年同期および当期間とも大きな投資はなく、有形固定資産や無形固定資産の定常的な取得が主な支出となりました。なお、当期間は前年同期に比べ、定期預金の預入による支出が増加しました。

#### POINT 財務活動によるキャッシュ・フロー

当期間は、主に公開買付けによる自己株式の取得を目的とした調達で短期借入金の純増減額が前年同期と比べ88億円の増加となった一方で、自己株式の取得代金として115億円の支出がありました。

## 6月 歯科医院向けセミナー開催

6月12日、中国の販売子会社Roland DG (China) Corporationが中国全土でデンタル加工機DWX-4を販売するパートナー企業と共同で、「歯科医療におけるデジタル技術の活用」と題したセミナーを北京で開催し、約30名の歯科医療関係者の方に参加いただきました。近年、中国では歯科医院の数が増加していると同時に、デジタル技術を活用した治療やサービスの差別化、高付加価値化に対する関心が高まっています。今回、歯の詰め物や被せ物の製作に使われる新素材ハイブリッドレジンと各社のデンタルツール、ソフトウェアを組み合わせることで、1日で治療を完了できる「ワン・デー・トリートメント」を提案。患者の負担が少なく、かつ、自院の治療価値を向上させる有効な方法として高い関心を集めることができました。



セミナーの様子

### デンタル・セールスマネージャー 細目拓郎

中国では今後、より高品位な歯科治療や審美歯科への関心が高まっていくとともに、歯科医院間の競争が激化していくと予想されます。当社のデンタル加工機は、他社メーカーの口腔内を直接読み取ることができるスキャナやCAD/CAMソフトウェアと組み合わせが可能なことが最大の強みです。お客様に最適なソリューションとして提案できるよう各社との協働を進めていくとともに、中国国内での認知度向上に向けた活動を幅広く展開してまいります。



## 6月 第33期定時株主総会のご報告

6月18日、静岡県浜松市のオークラアクロスシティホテル浜松において第33期定時株主総会を開催し、188名の株主様にお越しいただきました。総会では社長の富岡が議長となり、事業活動の報告と2年目に突入した構造改革「GlobalOne」についてご報告いたしました。展示コーナーでは、2013年度新製品の展示・実演とともに今年9月の発売に先駆けて3Dプリンターを参考展示し、製品機能だけでなく、デジタルものづくりの考え方、積層(盛る)、切削(削る)という2つの加工方法で広がるソリューションについてご紹介させていただきました。さらに、会場内に本物の自動車を持ち込み、当社大型プリンターで印刷したビニールシートを車体に貼付する施工(カーラッピング)を実演しました。「ラッピングされた車を見たことはあったが、こうやって作られているとは知らなかった」「近くで見ても綺麗に印刷されていますね」との感想をいただきました。今後も株主様に当社への理解を深めていただくことができる株主総会の運営に努めてまいります。



富岡による報告



展示コーナー

## 7月 Fab10協賛

7月2日-8日、スペイン・バルセロナ市で開催された「第10回 世界ファブラボ<sup>®</sup>代表者会議(以下Fab10:ファブテン)」に、昨年に引き続きメインスポンサーとして協賛しました。10回目を迎えた今回は、個人のものづくりという枠を超えて、都市全体の生産性向上、生活環境の課題解決、新興国の生活水準の向上をテーマに、デジタルものづくりの可能性を追求する場として、ファブラボが中心となり大学、行政、企業、起業家、一般市民、小中学生を巻き込みながら、街全体をより良いものに変えていこうとする動きが見られました。会期中は3Dプリンターをはじめとする製品を展示するとともに、当社主催のワークショップでは、参加者に気軽にデジタルものづくりを楽しんでもらえるよう、カッティングマシンを活用した肖像画の制作や、3D切削加工機を使ったオリジナル・チョコレートづくりなどの体験会を実施。身近な活用方法を通じて、当社製品の創造性を訴求しました。

今後も、ファブラボをはじめとする個人のものづくり分野に向けてどのような貢献ができるかを見極めながら、製品やソリューション開発に取り組んでまいります。



オリジナル・チョコレートのワークショップ

### ファブラボ

米国マサチューセッツ工科大学のニール・ガーシェンフェルド教授が提唱する、アナログからデジタルまでのさまざまな工作機器を取り揃えた市民工房で、現在、世界50カ国以上250カ所を超える拠点がある。個人の自由な発想に基づくものづくりを支援するだけでなく、ネットワークを活用して、ものづくりに関する知恵やノウハウを共有するグローバルなものづくりコミュニティを形成している。

## 9月 タイの生産工場、増床完了

9月2日、タイの生産子会社Roland Digital Group (Thailand) Ltd.において工場拡張工事の完了と操業2周年を祝う記念式典を開催しました。タイではインクジェットプリンターの主力機種であるVS-iシリーズなどの生産を行っています。日本と同様、1人1台生産システム「デジタル屋台(D-Shop)」を導入することで、高い組立品質を確保し、タイ工場で組み立てられた製品は世界中に出荷されています。今回の拡張工事で生産エリアの面積および生産能力は従来比の約2倍となりました。国内工場と合わせて今後の生産量の変動にも柔軟に対応してまいります。



上:2周年記念式典  
下:拡張部分

## ■ 自己株式買付にともなう親会社の異動ならびに自己株式消却のお知らせ

当社では、2014年5月の取締役会において自己株式の公開買付を行うことを決議し、7月3日付でローランド株式会社から自己株式3,560,000株を11,420,480千円で取得いたしました。さらに同年8月開催の取締役会において自己株式の消却を決議し、取得した自己株式のうち3,414,489株を9月10日に消却いたしました。この結果、ローランド株式会社の当社株式保有比率は40.00%から24.75%となり、親会社からその他の関係会社に該当することになりました。財務面では、利益剰余金が減少し自己資本比率は54.8%となりましたが、今後の事業運営や配当方針、財務状態などの健全性は確保できるものと考えております。なお、消却後の当社の発行済株式総数は、14,385,511株となりました。

	33期 期末	34期 第2四半期末
発行済株式総数(株)	17,800,000	14,385,511
自己資本(百万円)	30,676	20,649
自己資本比率(%)	78.8	54.8

## DG Value News アンケート集計結果

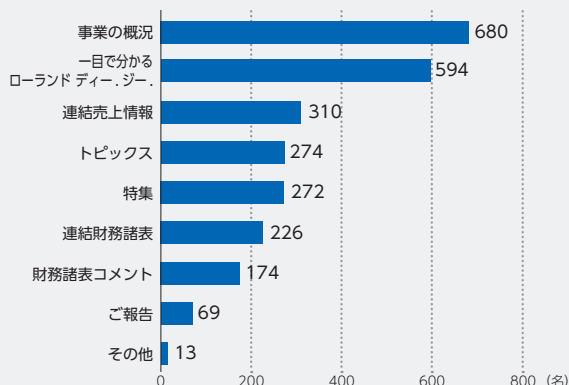
期 間：2014年6月18日から2014年9月30日  
 回答数：1,168名(2014年3月31日現在の株主数8,976名)

当社が提供する新しい価値を株主の皆様へわかりやすくお伝えできるよう、アンケート集計結果を参考にさせていただくとともに、株主の皆様からの貴重なご意見・ご要望を今後の経営に活かしていきたいと考えております。下記にアンケート集計結果の一部をご紹介します。

### Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください(複数回答可)

これまで株主様アンケートでも多くのご質問をいただいております3Dプリンターにつきまして、当社では9月3日より発売を開始いたしました。今回の特集では、企業・個人を問わず、ものづくりの喜びを広げるツールとして提案しているmonoFabシリーズの製品概要および3D事業の考え方をご報告させていただきました。

今後も皆様からのご意見・ご感想をもとに、当社の取り組みをより深くご理解いただける誌面作りに努めてまいります。



## 会社概要

商号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設立	1981年5月1日
資本金	3,668,700,000円
主な事業内容	コンピュータ周辺機器の製造販売
従業員数	1,166人(連結)

## 役員一覧

取締役会長兼社長 <sup>※1</sup>	富岡 昌弘	
取締役副会長	ロバート・カーチス	
専務取締役	鈴木 涉	
常務取締役	堀田 修史	
取締役	デビッド・ゴワード	
取締役	藤岡 秀則	
社外取締役 <sup>※2</sup>	広瀬 卓生	※1 代表取締役です。
社外取締役 <sup>※2</sup>	晝馬 明	※2 社外取締役 広瀬卓生氏 および晝馬明氏、 社外監査役 木下雅裕氏 および遠藤克博氏は、(株)東 京証券取引所が定める独 立役員です。
監査役	中川 正則	
監査役	鈴木 正康	
社外監査役 <sup>※2</sup>	木下 雅裕	
社外監査役 <sup>※2</sup>	遠藤 克博	

## 会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

## 事業所

本社	浜松市北区新都田一丁目6番4号
都田事業所	浜松市北区新都田一丁目1番3号
営業所	東京、名古屋、大阪、福岡
サポートセンター	札幌、仙台、広島

## 海外グループ会社

Roland DGA Corporation (アメリカ)  
 Roland DG Benelux N.V. (ベルギー)  
 Roland DG (U.K.) Ltd. (イギリス)  
 Roland Digital Group Iberia, S.L. (スペイン)  
 Roland DG Mid Europe S.r.l. (イタリア)  
 Roland DG North Europe A/S (デンマーク)  
 Roland DG Australia Pty. Ltd. (オーストラリア)  
 Roland DG (China) Corporation (中国)  
 Roland DG Korea Inc. (韓国)  
 Roland DG Brasil Ltd. (ブラジル)  
 Roland DG EMEA, S.L. (スペイン)  
 Roland Digital Group (Thailand) Ltd. (タイ)  
 Roland DG Deutschland GmbH (ドイツ)  
 Roland DG Europe Holdings B.V. (オランダ)

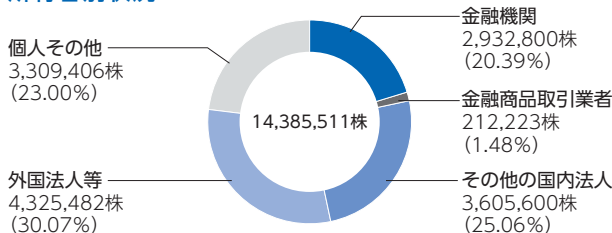
## 株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000株
発行済株式の総数	14,385,511株
株主数	7,304人

株主名	持株数	出資比率
ローランド株式会社	3,560,000株	24.75%
TAIYO FUND, L.P.	1,683,800株	11.70%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	735,400株	5.11%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	551,800株	3.84%
ピーエヌワイエムエル ノントリーティー アカUNT	446,900株	3.11%
ローランド ディー.ジー.社員持株会	375,100株	2.61%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	344,900株	2.40%
富岡昌弘	312,600株	2.17%
ステートストリート バンク アンドトラスト カンパニー	143,900株	1.00%
株式会社りそな銀行	140,000株	0.97%

※上記のほか当社所有の自己株式146,000株(1.01%)があります。

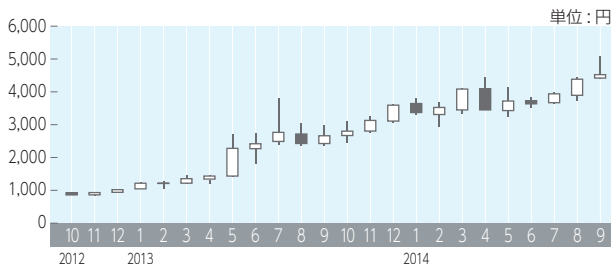
## 所有者別状況



※自己名義株式146,000株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。

※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

## 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日	
定時株主総会開催時期	6月	
単元株式数	100株	
基準日	定時株主総会の議決権 および期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告します。	
公告方法	当社の公告は電子公告とし、 インターネットホームページに掲載します。 <a href="http://www.rolanddg.co.jp/ir/">http://www.rolanddg.co.jp/ir/</a> ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-7111(通話料無料) [受付時間9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>	
株主優待	毎年3月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主様に、年1回当社が選んだ世界各国の名産品(3,000円相当)を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。(2014年6月実績)	
本誌に関する お問い合わせ先	IR課	TEL 053-484-1400
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	総務課	TEL 053-424-5041

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## IRサイトのご案内

当社では株主や投資家の皆様に当社を正しくご理解いただくとともに、最新情報を公平かつ迅速に提供することを目的に、ホームページを活用した情報開示を行っています。ぜひ、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。



### ● 最新IRイベント

直近の決算発表日や個人投資家向けのIRイベントへの出展など、IRに関する最新情報をお知らせしています。

### ● IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

### ● はやわかりローランド ディー・ジー

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。

今後も皆様のご意見を反映させながら、IR活動の充実を図ってまいります。

<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

ローランド ディー・ジー・IR

検索